

暮らしを豊かにする農地・人とまちをつなぐ

現在のまちのなかで、様々な形で受け継がれている農地。
その農地で、どんな活動がされているのか、
どんな思いがかけられているのか、のぞいてみましょう。

週末の居場所

農園で心身が健やか

「子どもが小学生の時、食育のために始めました。やってみたら楽しくて、ずっと続けています」と語る、田柄在住の山本さん。8年前から農業体験農園を利用しています。キュウリやナスのトゲを痛く感じたり、畑でとれた野菜のおいしさを知ったりと、お子さんと一緒に畑で学んだことは多いそうです。

「体験農園で農家さんから教えてもらえるからこそ、始められたし、続けられました」という山本さんは現在、体験農園、区民農園、練馬区農の学校と、3つの場所を利用しています。生きものを相手に、うまく育つように管理する難しさを日々実感しているといいます。

週末に自宅近くの農園で作業をすることが、ストレス発散になっていると実感しており、10年後もこの環境が



体験農園利用者 山本さん

残っているようにしたいという思いを強く持っているそうです。そんな思いを胸に、農サポーターとして農家の方の作業のお手伝いをしたり、地域の体験農園をめぐったりと積極的に農を楽しむ活動をされています。



調査隊 横田さん

いろいろな種類の農園での体験を通して、農を段階的に学ぶことができました。農園の持ち寄り昼食会でいただく、採れたて野菜で手作りしたごちそうは最高です。

農地と防災

体験農園で炊き出し訓練

南大泉で「緑と農の体験塾」を運営している加藤義松さんは、南大泉3丁目町会と連携した炊き出し訓練を実施しています。この訓練には、南大泉3丁目



農の学校(高松3丁目)の収穫祭



地元農産物の人気の高さをマルシェで実感！おどろきでした。



調査隊 岡さん